



平成灯台守

2024. 6 月号

発行/御前埼灯台を守る会



満 150 歳を迎えた御前埼灯台を祝う「御前埼灯台点灯 150 周年記念式典」が 5 月 3 日、灯台前広場（愛称ウミエール）で、主催者、来賓等関係者、一般参加者など 60 人余りが出席し、盛大に行われました。

式典は午前 10 時、豊臣秀吉が小田原征伐に向かう軍船と兵士の士気高揚のために打ち鳴らしたとされる故事にならって「灯台百年祭」のときに創作された「御前太鼓」の力強い演奏で始まりました。

主催者の下村勝御前崎市長、小川一夫清水海上保安部長、岩崎貞二灯光会会長が式辞、井林辰憲、小山展弘衆議院議員、森貴志静岡県副知事、河原崎全県議会議員、渥美昌裕市議会議長が祝辞を述べました。

続いて、①齋藤正敏灯台を守る会会長が灯台 150 年の歴史を紹介 ②御前埼小学校 5 年の増田風紗さんが作文、「私と灯台」を朗読 ③灯台建設時に建てられた道標の披露 ④御前埼こども園、白羽保育園の年長



園児 44 人が“くす玉”を割って長寿を祝い、11 時に終了しました。

五月晴れ！灯台まつり開催

式典のあと恒例の灯台まつりが御前埼小学校 6 年生児童によるソーラン節踊りで幕開けしました。今年は 3 日間とも五月晴れの好天気恵まれ、灯台資料館延べ入館者は前年より 696 人多い 1,827 人でした。

特に今年は 150 周年を祝う記念行事とあって守る会の活動にも力が入り、地区センター、市民プール、原子力館での灯台展や御前埼小への出前講座など事前 PR を行うとともに、①灯台愛が次世代に繋がることを願って保育園児に描いてもらった灯台塗り絵の展示 ②くす玉の製作 ③夕暮れ灯台参観に合わせて今と昔の灯り（光）が比較できるよう灯明堂の「あんどん」の点灯 ④灯台の竣工時の”祝い餅投げ“を再現。



屋外イベントではフラダンスも初登場し、南国ムード溢れる“御前埼の夏”到来を告げるイベントとなりました。

また、夕方には「灯台 150 周年を民間の力で盛上げよう会」が竹灯ろうを製作して灯台坂遊歩道を飾り、飲食、物販のマルシェも出店するなど灯台まつりを盛上げていただきました。

このような賑やかな灯台まつりができたのも、大勢の皆様方のご支援、ご協力、そして多額なご協賛をいただいたお陰であり、この場をお借りしてお礼申し上げます。

灯台まつり屋外イベントの様子は裏面写真のとおりです。
by masatoshi



ポスター作成: 伊村洋之会員



【灯台まつりの定番ソーラン節踊り 御小6年児童】



【灯台と緑の芝生にお似合いのフラダンス Ui Lahua】



【コミカルな仮装と演技で笑いを誘う JA 珍ドン隊】



【イベント支援隊 結成30年を迎えるドリームメイト】



【こどもの日の歌を歌う うめたちあき・田川晃会員】



【整然と行進、華麗な演奏を披露する ブラスアルファ】



【初参加したバンド演奏 ビーセブン】



【灯明堂の「灯り」と洋式灯台の「光」のあかるさ比べ】



【白羽保育園、御前崎こども園の年長園児が描いた灯台の塗り絵。200周年記念祭をこの子たちに託す。両園とも来年は統合されて、市立から民間運営となる】

外国籍客船4月に2隻寄港

4月に入ってダイヤモンド・プリンセス（イギリス籍 11 万ト）、オランダ船籍のウエステルダム（8.3 万ト）が相次いで御前埼港に入港しました。守る会では灯台資料館を開設して外国人観光客を迎えました。

6日の土曜日は港一灯台間をシャトルバスが 11 往復運行され、資料館入館者は一般客も含め 423 人を数えました。

当番日誌を覗くと、「英語が話せる会員のご息子が通訳応援をした。談笑の様子を聞くと、回転機械をコーンの破砕機だと思ったとか。お客さんは疑問が解け、対応者も英会話ができ良かったと喜んでいました。ちょっとした会話で良いからありがたい。」「クルーズ船は横浜発御前埼、神戸、釜山、日本海経由で北海道、横浜に戻る日本一周 14 日間の旅で、このコースは 2 回目というオーストラリアの夫妻もいた。」



【D・P号 新谷エイゴ坂】 【灯台沖を行くWD号】

灯台完成時に作られた道しるべ

御前埼灯台への道案内をした「道標」が灯台前広場のトイレ西に設置されました。

この道標は、灯台が完成する直前の明治 7 年 3 月に政府の役人、今武高光と村山清弘が現在の県道御前埼堀野新田線、大山、下岬、上岬三叉路に設置したと伝えられ、昭和時代に道路拡張工事により撤去されていたもので、灯台 150 周年記念にあたり移設復元されました。石碑は灯台建設に使われた建材と同じ伊豆石で高さ 90 cm、横幅奥行 30 cm で正面に「右燈明臺江九町」、左面に「右駒形神社 八町」、右面中央に「明治

七年三月建之」、その右に「朝臣源高光」、左に「村山清弘」と刻まれています。

なお、道標のあった道路の西側には、明治 4 年 4 月にカンテラ燈明臺の管理人として着任し、灯台建設、その後も御前埼に住み着き、灯台の仕事に携わった前島家（現在は比嘉家）がありました。



令和 5 年度資料館入館者 7,195 人

令和 5 年度は灯台資料館を毎週日曜日と 5 月の連休（灯台まつり）に開設しました。開館日数は 44 日、入館者数は前年度より 1,300 人ほど少ない 7,195 人でありました。減少の原因は雨天や強風の日が多く、資料館を開館できなかったためです。

【当番日誌より】

- ・4月に初めての外国籍客船が御前埼港に寄港したため市の要請により灯台資料館を開設した。入館者は 130 人。すべて外国人客ということで心配したが、自然体で対応したら何とかなった。
- ・灯台資料館の資料の多さを褒めてくれたお客さんもありうれしかった。
- ・神津島が見えたと言った実家（神津島）の兄にメールを送ったら、御前埼半島が見えたという返事が来たという女性がいた。
- ・灯明堂の説明を聞いて、御前埼の人って大変だったねと言ってくれた女性がいた。

